



2018年2月28日放送

印象に残る症例①

ふみぞの松田皮膚科 院長 松田 三千雄

木防已湯は心臓病或いは腎臓病に基づく浮腫や喘鳴に用いられるとされていますが、あまり使われない処方だと思います。しかし、強い浮腫を目安に使うと著効する場合があります。もっと知られてよい薬の一つだと考え、今回取り上げてみました。

森雄材先生の漢方処方の構成に基づいて木防已湯を見て行きたいと思います。これから利尿という言葉がたびたび出てきますが定義は組織に溜まった余計な水を血管にもどして尿から排出させる薬です。西洋薬の利尿剤は腎尿細管に働きかけ強制排水させますが、利尿剤はホメオスターシスを保つ薬剤です。本方は利尿消腫と補気の薬で構成されています。原典では隔間の支飲で、うっ血性心不全やうっ血肝に用いられました。隔は横隔膜、支飲は肺水腫の意味です。現代語にするとむくみ止めや体を元気づける生薬で構成され、横隔膜の上下の臓器のうっ血を取る作用でうっ血肝や心不全に有効と言う事だと思います。

木防已湯は防已、石膏、人参、桂皮で構成されています。防已・石膏の利尿の効能で肺水腫を除いて呼吸困難を改善し、人参で体力を補い、桂皮で循環を強化して利尿の効能を強め、清熱の石膏と散寒の桂皮により寒熱を調和させています。人参・桂皮の強心と、防已・石膏の利尿という強心利尿剤と考えてもよいと書かれています。石膏による消炎と、防已・桂皮による鎮痛効果を利用し、関節炎などに応用してもよいと考えられるとも書かれています。

皮膚科の外来でも下肢が非常に浮腫んでいる人をしばしば見かけます。非常に浮腫んでいる意味は弁慶の泣き所である脛骨部を指で押すと 1cm くらいへこむ人です。このような人に木防已湯が効く場合が結構あります。

高度なまぶたの浮腫や脛骨前浮腫を確認したら腹診をします。木防已湯の腹診の特徴は心窩痞堅です。みぞおち部を触ると堅く触れる事を心窩痞堅と言います。心窩痞堅も明らかな人からみぞおちがやや堅いかな？ 程度の人もあります。何れの場合も木防已湯が良く効きます。見逃しを防ぐために心窩部とその両わき、つまり肋骨のすぐ下の側腹部を触って堅さを比較します。側腹部に比べて相対的に心窩部が堅ければ心窩痞堅有りと考えます。ですから心窩部ががちがちに堅くなくても側腹部に比べ硬めであれば木防已湯です。高度な浮腫が有っても、心窩痞堅がない場合は九味檳榔湯を用います。九味檳榔湯は利尿剤の他に檳榔子など逐水剤も配合されています。逐水剤は組織に溜まった余計な水を血管にもどして尿と便からダブルルートで排泄する強力利尿剤です。ですから高度な浮腫にも有効です。

症例は 73 才女性です。舌痛症で漢方治療をしてきました。痛みの緩和の可能性を考えてヨク苡仁湯を試みていますが効き目は十分ではありません。血中亜鉛は 84 で、十分ありました。ある日、まぶたが腫れていたのを腹診をすると心窩痞堅がはっきりしていました。木防已湯を以前から飲んでいた六味丸に加えました。1 ヶ月ほどするとむくみは取れてきて防已黄耆湯に変更しました。それも更に 2 週間で廃薬になりました。舌痛は不変でした。

このように木防已湯は浮腫にとっても良く効く場合があります。木防已湯の使用目標は心臓病或いは腎臓病に基づく浮腫や喘鳴です。

次に、呼吸器に関する症例を紹介します。51 才男性。気管支喘息がありましたが、今は落ち着いています。咳発作は全くありませんし、喘鳴もありません。ある日息苦しさを訴えてきました。脛骨前浮腫はそう強くありませんが、まぶたは少しむくんでいます。腹診をすると側腹部に比べ心窩部が少し堅く触れます。軽い心窩痞堅と考えて木防已湯を選びました。時々透明な痰や咳がでるので苓甘姜味辛夏仁湯も飲んでもらいました。1 ヶ月後、息の詰まった感じは気にならなくなりました。

木防已湯は基本的に大人の処方ですが、小さな子供も適応になることがあります。

7 ヶ月の母乳栄養の男児です。アトピー性皮膚炎です。前医で食物アレルギーを指摘され食事療法で改善中でした。しかし、まだ顔にジクジク湿疹が、胸に赤くてかさかさな湿疹が残っていました。手を触ると少し冷たく、痰が絡むのかゼコゼコした呼吸でした。でも喘息では無いそうです。食事療法は継続しました。ジクジク湿疹を重視してジクジク止め効果のある越婢加朮湯 1.5g/日を、手の冷えから小児には温め効果のある補中益気湯 1.5g/日を処方しました。腹診所見はありませんでした。体質的な多痰と考え木防已湯 1.5g/日も飲んでもらいました。

1 週後にはジクジクが減ってきました。冷えもなくなりました。補中益気湯を止めて越婢加朮湯と木防已湯にしました。1 ヶ月すると喘鳴もなくなり木防已湯は廃薬しました。顔に湿疹が少し残ったので治頭瘡一方のみとしました。

最後に蜂によるアナフィラキシーで木防已湯が著効した症例を紹介します。漢方薬は救急の場には無縁と考えていましたが、必要な場合も有るのです。

症例は 51 才男性です。既往歴で蜂刺されによる蕁麻疹があります。患者はミツバチを飼っている会社に勤めています。退社直前に蜂に刺されました。刺された直後は少し痒い程度でした。アドレナリン注射液は携行していましたが、たいしたことがないと考え、自己注射を行わないで自家用車を運転して帰宅の途につきました。

運転中に痒みが強くなり、呼吸も苦しくなってきました。そこで、当院を受診しました。血圧は正常でしたが、全身に膨疹がみられました。軽い湿性の咳と軽度の呼吸苦も認められました。

血圧が正常だったのでアドレナリン注射液を皮下注するまでもないと考えて、生食 100ml にヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム注射剤 300mg を溶かして点滴静注から治療を開始しました。点滴が半分くらい入った時点で、蕁麻疹は軽度に改善していましたが、咳は止まりませんでした。

さらに 1~2 分様子をみました。患者は顔がうっ血してきた感じがすると訴えていました。確かに首から上の赤みは少し強くなってきました。試みに起坐にしてみると呼吸は少し楽になりました。そこで、患者に木防已湯 2.5g1 包を飲んでもらいました。

木防已湯内服後 5 分で咳が消えてきました。更に観察を続けるとそのまま咳は出なくなっていました。首や顔の腫れと紅斑も消えていきました。点滴終了後、更に 30 分外来で経過観察しましたが、蕁麻疹、咳、呼吸苦は治まっていました。

プレドニゾロン 30mg/日 3 日、その後 15mg/日 3 日で飲み止めとする処方と木防已湯 7.5g を 3 日分処方し、帰宅させました。これで無事治癒しました。次回からアドレナリン注射液を使用するように指導しました。

この症例では即効性ステロイドの点滴をしましたが呼吸苦は改善無く、顔のうっ血を訴えました。起坐により呼吸苦の軽度改善があったので、肺のうっ血による呼吸苦と考えました。木防已湯が救急の場にも有効で有った事に驚いた次第です。

木防已湯は強心利尿作用を有するうっ血肝、うっ血性心不全や肺水腫の薬とまとめる事が出来ます。するとこのような病態に基づく、喘鳴、多痰、浮腫、浮腫に伴う重だるさに効くことは容易に想像できます。その他血管内ボリュームが増えたために起こる血圧上昇に効果が期待できます。そうすると、意外に臨床の場で役立つことがあるのではないかと思います。